

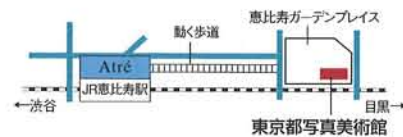
東京都写真美術館●展覧会スケジュール

	5月	6月	7月	8月
3F 展示室	日本広告写真家協会公募展 5月11日(土)~5月26日(日)		世界報道写真展 7月13日(土)~8月4日(日)	日本写真作家協会展 8月15日(木)~8月28日(水)
		マグナムが撮ったNY 9.11写真展 5月29日(水)~7月7日(日)		日中国交正常化30周年記念写真展 「日本・中国=人と自然と」 8月6日(火)~8月11日(日)
2F 展示室	絆—生きる輝き 5月24日(金)~6月9日(日)		遊写三昧 秋山庄太郎の写真美学展 7月13日(土)~8月4日(日)	
		日本の新進作家 風景論 6月13日(木)~7月7日(日)		こどものための写真展 「写真って何だろう」 8月9日(金)~9月23日(月)
1F ホール	絆—生きる輝き 6月1日(土)~6月2日(日)	マカロニウエスタンの傑作上映 6月15日(土)~7月5日(金)		
		デジスタ展@東京都写真美術館 関連シンポジウム 6月9日(日)		
B1F 映像展示室	デジスタ展@東京都写真美術館 5月30日(木)~7月3日(水)			「写真って何だろう」 関連映像展 8月9日(金)~8月28日(水)
		デジタル・イメージ2002展 7月13日(土)~8月2日(金)		

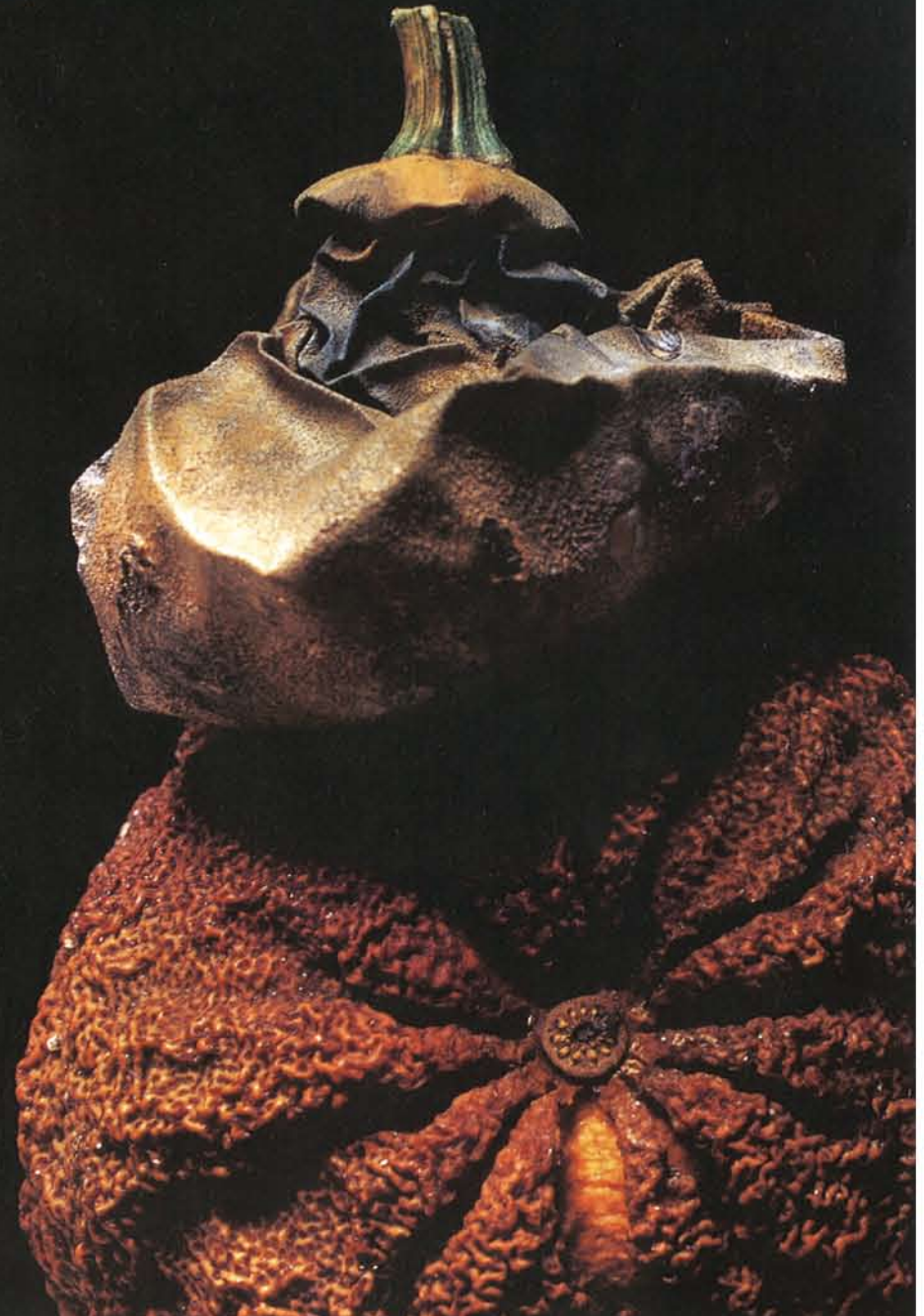
■ご利用案内

*全館セット割引チケットの販売：お得な割引料金で3つの展覧会をご覧いただけるチケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。

- 休館日：毎週月曜日
(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)
- 開館時間：10:00~18:00 (木・金は20:00まで)
入館は閉館の30分前まで



http://www.tokyo-photo-museum.or.jp
Tel.03-3280-0099 Fax.03-3280-0033
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分
当館には駐車場はありません。お車のご来館はご遠慮ください。



2F・展示室 7月13日(土)～8月4日(日)

遊写三昧 秋山庄太郎の写真美学展

Shotaro Akiyama Exhibition

●一般500(400)円●学生400(320)円●中・高生・65歳以上250(200)円 ▶()内は20名以上の団体料金
※小学生以下およびお身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
主催：東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 協賛：花王株式会社
助成：日本芸術文化振興基金 協力：NHK情報ネットワーク/富士写真フイルム/キャノン



ジプシー・ローズ 1956年

特集●アイズ・インタビュー

僕はアマチュアリズムが強いから
好きなものだけを撮り続けてきた。

表紙写真：「遊写三昧」より 2002年 ©秋山庄太郎

eyes interview

大学卒業まで、ずっと続けて来たのは
勉強じゃなくて写真だった。

——カメラに出会ったのはいつですか。

13歳の時。親父に買ってもらった。13円だったよ、まだ覚えてる。最初に撮ったのは、犬が背伸びしてる瞬間だったね。あんまり記念写真は撮らなかった。旧制中学4年の時、修学旅行で奈良へ行ったんだよ。夕方の若草山で、枯れススキがなびいててね、ねぐらに帰る鹿の群れを撮ったんです。それが、ピントも露出も何もかもよかった。偶然ですよ。伸ばしたらね、本当に芸術写真に見えた。この1枚が写真にのめり込む、本当のきっかけかもわかんないな。

それから大学生（早稲田大学）になって、すぐ写真部に入ったの。だけど遊ぶのが面白くて、1年間、写真を全くさぼったね。で、2年の時にね、同級生の写真が雑誌の口絵に載ったんですよ。そしたら急に闘争心が湧いてね。「おれもやろう」って気になった。当時はそろそろ戦争だから、それに迎合する学生も出てきたけど、僕は自分の好きな写真しか撮らなかったよ。

——処女作品集「翳」を自费出版されましたね。

大学卒業する前に、「おれの人生は写真しかなかった」っていうことに気がついてね、すべてを売り尽くして「翳」という写真集を出した。



PROFILE

あきやま しょうたろう

1920(大正9)年、東京神田生まれ。13歳から写真を始め、戦後、女優の肖像写真で脚光を浴びる。その後、代表作となる文士・画家等のポートレートを発表。65年頃より、ライフワークとなる「花」の写真を手がける。紫綬褒章受章(86年)ほか受賞多数。82歳になる現在も精力的に制作活動を続けている。

もうすぐ戦争だったから「これはおれの形見だ」って。その頃からもう、僕の癖が出てきたね。影を使うとか、美しいと思うもの何にでも興味があるっていう。表紙はとれちゃったけど、戦地に行行って戻ってくるまで絶対手放さなかった。

親父を手伝って美味しいものは食べたけど
僕はどうしても写真がやりたくなった。

——戦後すぐに写真の世界に入られたんですか。

最初は親父の会社に入られたんです。相当収入があってね、美味しいものも食べた。でも結局、満足感ってないんだね。で「どうしても写真がやりたい」って、銀座に写真スタジオをもった。だけどお客がこなくて、すぐにつぶれました。お客だって、食べるのに必死だから。

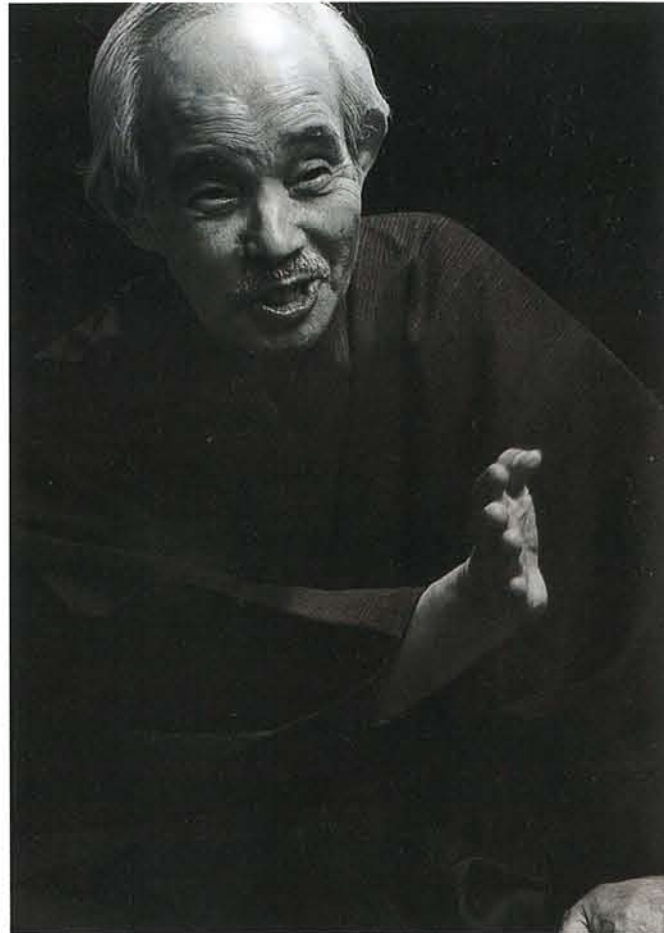
——その後が映画雑誌のカメラマンですね。

林忠彦さんが紹介してくれたんだ。でも多分、僕は普通だったら入らなかったかもしれない。お勤めが嫌いだから。ところがその何日か前に、銀座の焼け跡で、原節子さんとすれ違って…。僕の写真の原点で「バラと原節子」って、あるんですよ。子供の頃、初めてバラを見た時に、バラが一番きれいな花に見えた。そして16歳の時に原節子のデビュー映画を見たんだ。その時ね「ああ、バラの花のような人だ」と思ったんです。だから林さんから誘われた時「原節子が撮れる」って、もう飛びついたな。

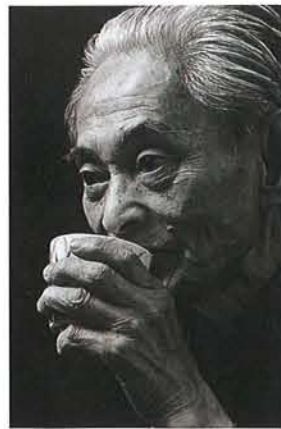


原節子

遊写三昧 秋山庄太郎の写真美学展



小野 竹喬 1978年



川端 康成 1972年



「薔薇よ」より

©秋山 庄太郎



「遊写三昧」より 2002年

作家の高見順さんが「庄ちゃんは男も色男に撮ってくれる」って。

——原さんは写真嫌いで有名ですね。

でも偶然、湘南電車で一緒になって話しかけられたのが始まりで、彼女の家で写真を撮ることになりました。原さんはポーズをとるのが嫌いなんだ。「知らないうちに撮って」って。ちょうど1か月に1回撮らせてくれました。

僕たちは同い年だったけど、原さんは40歳で急に引退しちゃった。見事だと思ったな。

——同じような時期に人生の転機となる「写真家45歳定年説」を書かれましたね。

自分の反省の意味も込めてなんだけど、15年も20年も第一線でやるとね、みんな自信過剰になります。ところが写真家を選ぶ編集者なんかは若いから、「あのおじさんうるさいから」とか「威張るから」とかで、若い写真家に替えるの。僕は40歳の時はずいぶん仕事してましたけど「無一文で出直そう」と思って、当時のお金を全部持ってパリに行って半年遊んでた。ところが帰って来てから忙しくなっちゃった。

——その頃から花を撮り始めてますね。

花は45歳から撮り始めた。「おれは誰が何と

eyes interview

言ってもバラを撮る」って。文士の写真は53歳から。なぜ遅く始めたかという、こっちが若い時は向こうの方がみんな偉いに決まってる。でも自分が53歳になるとね、そんなに位負けしないの。だから非常に表情に柔らかさが出る。偉い人なんだけど、自然なんですよ。作家の高見順さんは「庄ちゃんは女性を少しでもきれいに撮ろうと努力した人だから、男も色男に撮ってくれる」って言ってたな。

厳しい顔もあれば、寛いでるものもある。僕はその人らしさを撮る。

——よい写真とは？

僕は「ああいう顔しろ」「こういう顔しろ」って、演出はしません。それから余計なものは全部どけて…。その方が自然に、その人の人間性が出てくるのね。やっぱり自然の顔っていいのはいいですよ。

女性を撮る時に、きれいに撮ろうとするのは当たり前だけどね。僕は男にも、風景にも…みんなそうなんだ、一貫して。

あのね“きれいさ”というのは、ひと言でいうと「きれい」ということなんだろうけど、その中にはたとえば立派だとか、自然である、というきれいさがあって、そういうことは花にも人間にも風景にも全部通用するね。

——「遊写三昧」の意味を教えてください。

自分で作った言葉だよ。だって遊んでるんだから。これをどこに売るとか考えないもんね。自分が撮りたいから撮っただけで。今度1,000枚のポストカード作ろうか、写真集にしようか迷ってるし。飽きないね、写真っていうのは。

2F・展示室 8月9日(金)～9月23日(日)

こどものための写真展

写真って何だろう

主催：東京都／東京都写真美術館ほか

※関連ワークショップ等開催予定。詳しくは館内のワークショップ・インフォメーションやホームページ、チラシをご覧ください。

写真は人々が作ってきた歴史であり、社会と人々を結びつける重要なメディアです。このプロジェクトは、子供たちを対象としつつ、写真の面白さを伝え、親子で学べる楽しい展覧会です。

2F・展示室 5月24日(金)～6月9日(日)

絆—生きる輝き

東京写真月間2002
THE MONTH OF PHOTOGRAPHY, TOKYO 2002

●入場無料
主催：東京写真月間2002実行委員会/
社団法人日本写真協会/東京都写真美術館



◎長野陽一「シマノホホエミ」より



◎齋藤光一「にっぽん五世代家族」より

「絆—生きる輝き」をテーマにした、9人の写真家たちによる約200点の作品を紹介します。写真家たちがそれぞれの視点で、何気ない日常の中では見過ごしてしまいがちな、家族や人間同士の絆を捉えます。そこには衝撃的な、あるいは見る者を圧倒するような迫力はないかもしれませんが、しかし私たちの心に少しずつ、静かに、そして確実に浸透し、見えない「絆」が生きていきと浮かび上がってきます。

展覧会期間中、出品写真家によるフロアレクチャーを行っています。日時などは美術館にお問合せください。

●お問合せ：社団法人日本写真協会 Tel.03(5276)3585

2F・展示室 6月13日(木)～7月7日(日)

日本の新進作家 風景論

平野正樹/鈴木理策/中野正貴

On Landscape; Contemporary Japanese Photography

●一般500(400)円●学生400(320)円●中・高生・65歳以上250(200)円

▶()内は20名以上の団体料金

※小学生以下およびお身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料

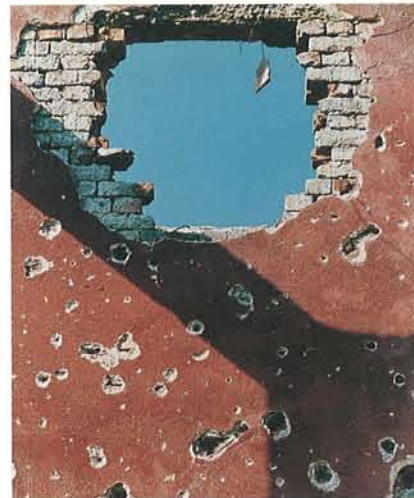
主催：東京都/東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会

協賛：ニコン/アサヒビール/富士写真フィルム/花王株式会社 特別協力：フレームマン

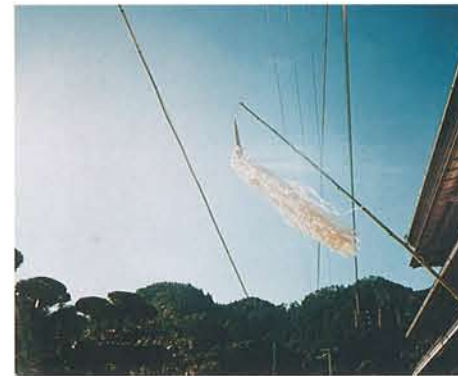
協力：コダック/堀内カラー/写真弘社



◎中野正貴「Ginza Chuo-ku」シリーズ(TOKYO NOBODY)から 1990年



◎平野正樹「Sarajevo」シリーズ(HOLES)から 1997年



◎鈴木理策 シリーズ(KUMANO)から 1996-98年

On Landscape

開館以来、積極的に現代写真の展覧会を開催してきた当美術館が、日本の気鋭新進作家の展覧会を継続的に開催します。

第1回は、平野正樹・鈴木理策・中野正貴の3人の作品を展覧する「風景論」です。

長年、広告写真の分野で活躍してきた平野・中野の両氏は、2000年度の日本写真協会新人賞を受賞。また鈴木氏は、1999年度木村伊兵衛賞を受賞するなど、3人ともすでに高い評価を獲得している写真家です。

彼らはまったく異なる視点から、現代の風景と取り組んでいます。静かな画面の中に、現代のさまざまな問題をえぐり出す彼らの「風景」全129点を通して、私たちが考えなければならない「今」が見えてきます。

*出品アーティストとふれあうワークショップ開催予定! 詳しくはP14をご覧ください。

B1F・映像展示室 5月30日(木)～7月3日(水)

デジスタ展@東京都写真美術館

Digital Stadium Exhibition@Tokyo Metropolitan Museum of Photography



●一般500(400)円●学生400(320)円●中・高生・65歳以上250(200)円

▶()内は20名以上の団体料金

※小学生以下およびお身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：東京都/東京都写真美術館/ NHK 企画協力：NHKエンタープライズ21

協力：エプソン/株式会社五藤光学研究所/J-PHONE/ボース株式会社/日商エレクトロニクス株式会社



昨年末に開催されたデジタル・スタジアム・アワード2001にて……番組キュレーターのみなさん

NHK衛星第一放送の「デジタル・スタジアム」は、若手クリエイターたちに支持されているデジタルアート番組です。毎週、CGアニメーションやメディア・アートの作品を一般公募し、優秀作を選ぶスタイルをとりながら、新しい才能の発掘・育成に取り組んでいます。入賞したクリエイターは、すでに国内外で活躍し、その実績が評価されるようになってきました。

今回はその入賞作品の展示を中心に、デジスタをより多くの方々に親んでもらうため岩井俊雄、田中秀幸など番組キュレーターの作品に加え、「TOKYO」をテーマにした特別展示も企画。アーティストとして立花ハジメ、明和



◀番組収録風景……キュレーターの明和電機とゲストの佐伯日菜子

●参加予定作家
飯田かずな/飯田啓子/伊藤有彦/岩井俊雄/
宇田敦子/立花ハジメ/田中秀幸/中尊寺ゆつこ/
手塚真/寺井弘典/中島信也/都築馨一/槍山隼/
ホンマタカシ/松浦季里/三橋純/宮崎光弘/
明和電機/森本晃司/ロドニー・A・グリーンブラット/
デジタル・スタジアム入賞者ほか
(以上敬称略・五十音順)



▲番組ナビゲーター……NHK解説委員中谷日出と司会の石井麻由子アナウンサー



デジタル・スタジアム・アワード2001……部門賞を受賞した若きクリエイターたち



▲番組収録風景……キュレーターの松浦季里(中右)とゲストの香山リカ

電機、伊藤有彦などが参加する予定です。また番組との連動企画として、「東京」をイメージするショート・ムービークリップを一般公募し、期間中は会場と番組内で取り上げます。

●お問合せ：デジスタ展事務局 Tel.03(3481)7747
<http://www.nhk.or.jp/digista/>

B1F・映像展示室 7月13日(土)～8月2日(金)

デジタル・イメージ 2002展

Digital Image 2002

●一般500(400)円●学生400(320)円●中・高生・65歳以上250(200)円

▶()内は20名以上の団体料金

※小学生以下およびお身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

主催：東京都/東京都写真美術館/デジタル・イメージ

後援：CG-ARTS協会/財団法人デジタルコンテンツ協会



◎渡辺秀樹「Kagomekagome」



◎藤井啓誌「Sketch-2」



◎大都博之「untitled」



◎北岡久美子「マンドリン」



◎鈴木守「タネ」

「デジタル・イメージ」は、1989年に11名でスタートしたCGアーティスト集団。現在は226名ものアーティストが参加する、国内最大のグループに成長しました。参加アーティストは画家、グラフィックデザイナー、イラストレーター、フォトグラファー、プログラマー、教育者、建築家、漫画家、音楽家など職業も幅広く、CGと一言ではくれない作品を発表しています。この展示はその全体展ということで、3D、CGアニメーション、ペイントなど、多彩なデジタルアートを通し、「デジタル・イメージ」の世界を一挙に見ることができる大規模な試みです。

●お問合せ：デジタル・イメージ事務局
Tel.03(5212)1633
<http://digitalimage.org/>

3F・展示室 5月29日(木)～7月7日(日)

ニューヨーク セプテンバー イレブン

マグナムが撮った NY 9.11 写真展

The Day NY SEPTEMBER 11 by MAGNUM PHOTOGRAPHERS



©Steve McCurry/Magnum Photos Tokyo

●一般800(600)円●大高生600(400)円●中学生以下無料

▶()内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、アトレカード、三越カード会員割引料金

※お身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料 ※入場料の一部は「NY支援募金」に寄付されます。

主催：東京都/東京都写真美術館/マグナム・フォト東京支社/NHK情報ネットワーク

後援：アメリカ大使館/東京都/日本経済団体連合会/日本写真協会/日本写真家協会

特別協賛：セラータムテクノロジー/トヨタ自動車 協賛：旭化成/シグマ/ソニー/DNP大日本印刷/東京電力/松下電器産業

協力：富士写真フイルム/NHK厚生文化事業団/新潮社/日本油脂/フレームマン/

サッポロビール/アマゾンデザイン/絶対空間



©Hiroji Kubota/Magnum Photos Tokyo



©Susan Meiselas/Magnum Photos Tokyo



©Gilles Peress/Magnum Photos Tokyo

講演会：5月31日(金) 18:30～20:30
1Fホール(先着190名、要展覧会チケット)
講師：トーマス・ヘプカー(写真家) ※逐次通訳付

2001年9月11日——世界を震撼させたニューヨーク世界貿易センタービルの崩壊から、すでに9カ月。まるで映画のワンシーンを見るような衝撃的な映像は、私たちの脳裏に深く刻み込まれ、決して忘れないものとなりました。その時、現地に集結していた写真家集団〈マグナム〉のメンバーによって、この劇的な記録が、写真集『NY SEPTEMBER 11』として緊急出版されたのです。

この展覧会は、ドキュメンタリーの伝統を受け継ぎ、多くの著名な写真家を輩出してきた〈マグナム〉が、爆心地(グラウンド・ゼロ)となったビルの現場周辺や哀悼に包まれた街頭風景だけにとどまらず、在りし日の摩天楼や現在の様子を撮った作品も含めた歴史的証言です。唯一の日本人メンバー久保田博二を含む21名の写真家たちによる約100点の作品(新作撮り下ろし約20点を含む)と、作家をはじめ関係者たちのコメントにより、再構成して展示されます。



©Alex Webb/Magnum Photos Tokyo

3F・展示室 5月11日(土)～5月26日(日)

第30回 社団法人日本広告写真家協会公募展 (第30回APA賞公募展)

主催：社団法人日本広告写真家協会 後援：経済産業省/文化庁/東京都写真美術館

公募作品1,300点余りの中から選ばれた広告写真の入賞・入選作品の展覧会です。

テーマである「公共広告へのアプローチ」と「企業広告へのアプローチ」の2部門を、それ

ぞれクリエイティブな視点で捉えた作品約170点を紹介します。

また作品の中から十数点に、キャッチコピーを加え、広告ポスターに仕上げて展示します。

3F・展示室 7月13日(土)～8月4日(日)

世界報道写真展 2002年次展

WORLD PRESS PHOTO 2002

●一般700(560)円●学生600(480)円●中・高生400(320)円▶()内は20名以上の団体料金
 ※小学生以下と都内中学生は無料、65歳以上は一般料金の半額で第3水曜日のみ無料
 ※お身体に障害をお持ちの方とその介護者は無料
 主催：朝日新聞社/世界報道写真財団 共催：東京都写真美術館
 後援：オランダ大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会
 協賛：キヤノン/キヤノン販売/イーストマン・コダック社/KLMオランダ航空会社



2001年度世界報道写真大賞
 エリック・レフネル(デンマーク)
 埋葬のため体を洗われ、白布で包まれるアフガン難民の1歳の男児
 パキスタン 2001年6月

世界報道写真展は、世界規模で行われる権威ある報道写真コンテストで入選した作品を展示するものとして、毎年注目を集めています。今年は123の国と地域、4,171人の写真家から49,235点もの応募があり、その中から入賞作品が選ばれました。世界35カ国以上を巡回し、数百万人が訪れるというこの展覧会は、文化や言語の違いを越えることのできる写真の力を裏付け、見る者に鋭く事実を突きつけます。

●お問合せ：朝日新聞社 事業本部 文化事業部
 Tel.03(5540)7412



スポーツ 単写真1位
 フレッド・ヴック(アメリカ)
 マスターズゴルフの18番ホールでティーショットを打つ
 タイガー・ウッズ



3F・展示室 8月6日(火)～8月11日(日)

日中国交正常化30周年記念写真展 「日本・中国＝人と自然と」

主催：朝日新聞社/日本写真家協会他 企画運営：全日本写真連盟
 今年9月に30周年を迎える日中国交正常化を記念し、文化交流を目的にした写真展を日中両国で開催します。「未来に残そう自然風景と人々の生活」をテーマに、日本と中国の優れたプロ・アマの作品から約140点を展示します。

◎八田一徳「師走の杵音」

1F ミュージアム・ショップが
 リニューアルオープンしました



ポストカードや本棚のスペースが増え、オリジナルプリントを販売するなど、魅力的な商品を豊富に取り揃えました。またクレジットカードもご利用いただけるようになり、よりお買い求めやすいショップに生まれ変わりました。なお、友の会会員にはお得な割引(一部商品を除く)もございます。ご来館の際には、ぜひお立ち寄りください。



1F・ホール 6月15日(土)～7月5日(金)

上映会のご案内

マカロニウエスタンの傑作上映 「怒りの荒野」「続・荒野の用心棒」

熱狂的ファンが多いマカロニウエスタン。中でも傑作と名高い「怒りの荒野」と「続・荒野の用心棒」がニュープリントで蘇ります。また上映期間中は、1Fロビーにてポスター展も同時開催します。



●料金：
 一般1,500円

●お問合せ：IMAGICA Tel.03(3280)1688

東京都写真美術館友の会は お得な特典がいっぱいです



東京都写真美術館では新年度友の会会員を募集しています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、ミュージアム・ショップでの割引(一部商品を除く)、美術館内カフェのコーヒー券、写真美術館ニュースeyes02の送付、学芸員によるフロアレクチャーなど、たくさんの特典をご用意しております。また東京都庭園美術館、東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都現代美術館、東京都美術館では、会員証を提示すると割引料金でご入場いただけます。この機会に、ぜひご入会ください。

●詳細は当美術館までお問合わせください。

年会費

会員期間	4～3月末	10～3月末
個人会員	2,000円	1,000円
家族会員	3,000円	1,500円
シルバー会員	1,000円	500円

維持会員のご案内

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。(平成14年4月現在)

- 特別維持会員
 - キヤノン株式会社
 - 株式会社資生堂
 - 東京電力株式会社
 - 凸版印刷株式会社
 - 株式会社リコー
- 維持会員
 - 旭光学工業株式会社
 - アサヒビール株式会社
 - オリンパス光学工業株式会社
 - 鹿島建設株式会社
 - キヤノン販売株式会社
 - キリンビール株式会社
 - コダック株式会社
 - サッポロビール株式会社
 - ジェイティービー印刷株式会社
 - セイコー株式会社
 - 大日本印刷株式会社
 - 東京ガス株式会社
 - 株式会社東芝
 - 株式会社徳間書店
 - トヨタ自動車株式会社
 - 株式会社ニコン
 - 日産自動車株式会社
 - 学校法人 日本写真芸術専門学校
 - 株式会社ワコール

(五十音順)



WORKSHOP

ワークショップ・レポート

デジタルカメラ/ デジタルイメージを体験しよう 2002年 3月23日(土)・24日(日)

6回目を迎えるコンピュータグラフィックスのワークショップにはご夫婦、友人同士、1人で…と、参加スタイルも年齢層も幅広い、およそ20の方が参加しました。CG未経験者から、すでに経験があるという人まで、さまざまです。

講師は飯田かずな先生と三橋純先生。両先生とも「あ、見たことがある」という作品を手がけている人気の写真家です。まずは2人の先生の写真論や実際の制作工程のショーイング。



▲飯田かずな先生



▲三橋純先生

作品を紹介しながら、わかりやすく説明してくれるので、写真やデジタルメディアがどんどん身近なものに感じられます。質疑応答では、かなり踏み込んだ質問も飛び出し、関心の深さがうかがえました。

1日目は、翌日皆さんが作業する素材となる、全員のポートレートと全身写真を先生に撮影していただいて終了。この頃にはすっかりなごやかなムードで、笑いを誘うポーズをとる人もいました。

さて2日目はいよいよ実作業です。パソコンを使って、それぞれ自分の顔あるいは全身写真を加工します。制作するのは2種類。顔写真は三橋先生の課題。皆さん思い思いに手を入れます。薄い眉を濃くしたり、目を大きくしたり…

▶2日目の作業用に参加者全員を撮影。これが一体どんな作品になるのか、参加者はまるで想像が付きません。それでも思い思いに、はいポーズ!



▲作業中は先生とスタッフが丁寧に指導してくれます。

これなら誰でも美人になれそうです。全身写真は飯田先生の課題。参加者は3つのグループに分かれて、背景となる宇宙空間に自分たちの写真を好きな場所に、好みの大きさに配置していきます。引き伸ばしたり、ゆがめたり、逆さにしたり…形もいろいろ。作業中は終始笑い声が絶えず、ユニークな作品ができあがりました。

実際に自分たちで作品を作り上げるワークショップ。CGが難しいものではなく、親しみやすく、大きな可能性をもったものである一と実感できた2日間でした。



参加者の肖像を飯田先生と三橋先生がまとめてくださり、写真美術館1Fホール前に堂々展示。

東京都写真美術館では、写真や映像をテーマにした多彩なワークショップを開催しています。活躍中のアーティストを講師に迎え、古典から最新技術まで、楽しみながら写真・映像の世界が体験できます。

ワークショップ 6月~8月の予定

特別共同企画 写真を創ろう ワークショップ

- 解説：神保京子(当館学芸員)
- 日時：6月15日(土)9:30~17:30
- 定員：30人
- 参加費：3,500円(入場料・材料費込)
- 申込み・締切：往復はがき 6月3日(月)必着
- お問合せ：Bunkamura 総務部 ワークショップ事務局係 Tel. 03(3477)9020 (11:00~17:00)

「マン・レイ写真展」を開催するBunkamura ザ・ミュージアムとの特別共同企画です。展覧会を鑑賞した後、マン・レイが好んで用いた手法「レイヨグラフィ」や「ソラリゼーション」に挑戦します。

展覧会の作り方+アーティストトーク

- 日時および講師：笠原美智子(当館学芸員)
- 6月21日(金)17:00~19:30 鈴木理策
- 6月22日(土)13:00~15:30 中野正貴
- 6月23日(日)13:00~15:30 平野正樹
- 定員：先着30人
- 参加費：500円
- 申込み方法：当日、1階インフォメーションにて開始1時間前から受付(申込みはがきは不要)

企画立案から具体的な作業まで、普段知る機会のない展覧会の裏側を紹介するとともに、「日本の新進作家展」(P5参照)の出品アーティストとの交流が楽しめます。

フィルム・ワークショップ

- 講師：太田曜(映像作家)
 - 日時：Aコース 7月20日(土・祝)
 - Bコース 7月21日(日)
 - 各コースとも18:00~20:30
 - 定員：各30人
 - 参加費：各コース2,000円
 - 申込み・締切：往復はがき 7月7日(日)必着
- 8mmで撮影し、合成などのさまざまな技術を駆使して独自の世界を作り上げているアーティストを講師に迎え、その技術を指導してもらいながら、フィルム作りを体験します。

ポスター創作ワークショップ

- 講師：当館学芸員等
- 日時：版画コース 6月8日(土)・9日(日)
- デジタルコース 6月29日(土)・30日(日)
- 全日10:30~17:00 各コース2日間連続
- 定員：各15人
- 参加費：各コース1,000円(材料費込)
- 申込み・締切：往復はがき
- 版画コース 5月27日(月)必着
- デジタルコース 6月16日(日)必着

オリジナルデザイン・ポスターを制作しませんか。完成した作品は当館に掲示します。

定点観測プロジェクト[ファイナル]

- 日時：7月28日(日)10:30~17:00
 - 8月17日(土)10:30~17:00
 - 8月18日(日)9:00~17:00
 - 8月25日(日)10:30~17:00
 - 定員：30人(高校生以上で4日間とも参加可能な方)
 - 参加費：無料(4日間)
 - 申込み・締切：往復はがき 7月11日(木)必着
- 「東京」をテーマに、都市や時の移り変わりを観測した7年にわたるプロジェクトのファイナルです。

光の魔術 フォトグラムをつくる

- 日時：8月10日(土)Aコース10:30~12:30
 - Bコース14:00~16:00
 - 8月11日(日)Cコース10:30~12:30
 - Dコース14:00~16:00
 - 定員：各コースとも親子10組(小学生以上)
 - 参加費：1人1,000円(材料費込)
 - 申込み・締切：往復はがき 7月25日(木)必着
- 夏休みに親子で楽しめるワークショップです。

往復はがきでお申込みの場合

氏名・住所・電話番号・年齢・職業・希望するワークショップおよびコースを明記し、ご郵送ください。お申込みは必ず希望コース1つにつき、往復はがき1枚でご応募ください。なお、応募者が定員を超えた場合は抽選になります。

申込み先

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
東京都写真美術館ワークショップ係

*ワークショップの詳細はワークショップ・インフォメーションやホームページをご覧ください。